

## 柱状図作成ツール v.1.0 操作マニュアル

### 1. 動作環境

Windows10 および Windows11 での動作確認済み。  
ディスプレイ解像度 1920x1080 以上。

### 2. 操作マニュアル

#### 2.1. 実行する前に

柱状図作成ツールの圧縮ファイルを展開してください。

○フォルダ構成

フォルダ【柱状図作成ツール】

- 柱状図作成ツール.exe:実行ファイル
- default.set:デフォルトの入力設定ファイル
- pyroclastic.set:火砕岩を設定した入力設定ファイル
- TEX:テキストチャフォルダ
  - SYSTEM:本アプリで設定したテキストチャデータ格納場所
  - USER:ユーザーで作成したテキストチャデータ格納場所\*
- サンプル記載.txt:サンプルデータの基となった記載例
- サンプルデータ.csv:サンプルデータ
- サンプルデータ.png:サンプルデータ.csv で描画した柱状図の出力例

\*:こちらで用意したフォルダですので、ご自身で別途、ご都合の良いフォルダなどをご利用ください。  
(TEX フォルダは砂や礫などのデフォルトのハッチング画像データを格納しているため、同じフォルダ内にないとハッチングされません。フォルダ構成を変更する際は、この点にご注意ください。)

#### 2.2. 起動

柱状図作成ツール.exe を実行してください。

#### 2.3. 起動画面の説明

柱状図作成ツールを起動すると、以下の画面(図1)が表示されます。

赤線枠内の画面(以下、描画範囲)が真っ黒の場合、使用しているPCのグラフィックスドライバが最新でない可能性があります。

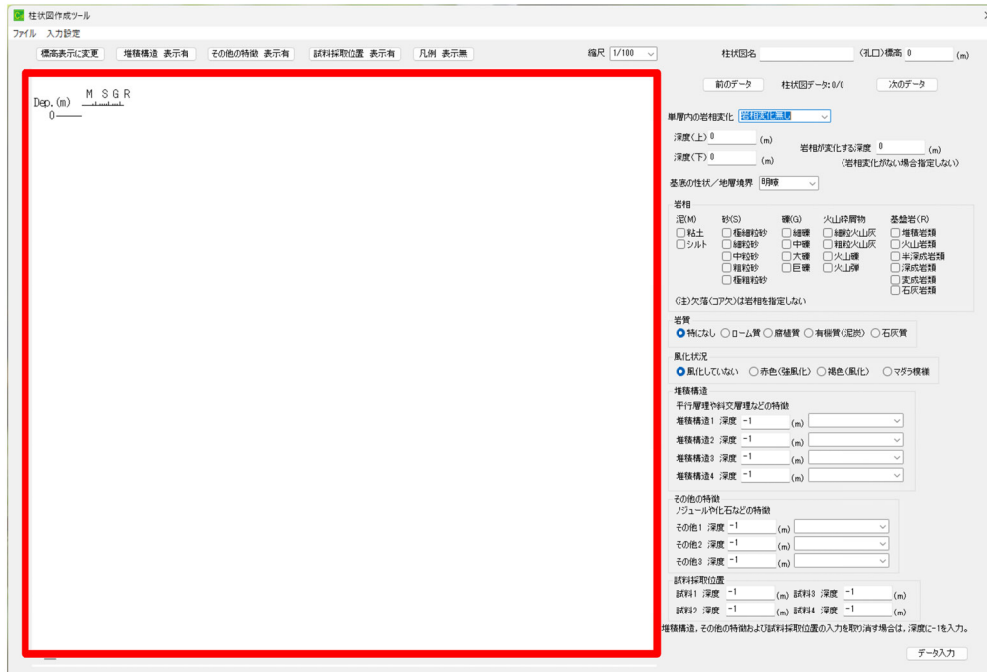


図 1. 起動直後の画面

## 2.4. データ入力と柱状図作成

画面右側の入力ボックスに、作成する柱状図のデータを入力ください。以下のデータを入力した後に、画面最下部のボタン“データ入力”を押す(図 2)と柱状図が描画されます(図 3)。

Figure 2 shows the data input screen. The interface includes a sidebar with 'test' and 'MSG R' labels. The main area contains various input fields for geological data, including depth (0 to 0.8 m), rock type (sandstone, shale, etc.), and other parameters. A 'データ入力' (Data Input) button is at the bottom right.

図 2. データ入力状況。数値あるいはチェックボックスなどに入力。

Figure 3 shows the data input screen after clicking the 'データ入力' button. The sidebar now shows a columnar diagram for 'test' with depth markers at 0 and 1. The main area shows the same input fields, but the 'データ入力' button is now disabled.

図 3. “データ入力”ボタン押下した画面。入力データに応じた柱状図が描画される。同時に、次のデータ入力画面に切り替わる。ひとつ前の深度(下)の値が自動で深度(上)に引き継がれるが、それ以外の入力項目は初期化される。

### 2.4.1. 柱状図名

柱状図名(露頭番号あるいは孔番など)を入力。入力結果は描画範囲に表示されます。

#### 2.4.2. (孔口)標高

露頭上部の標高あるいはボーリング孔の孔口標高を入力。描画範囲に表示されませんが、後述の”標高表示に変更”の際に入力値が反映されます。

#### 2.4.3. 単層内の岩相変化

- ・岩相変化なし: 岩相に変化がない場合に選択。
- ・級化構造: 級化構造あるいは上方細粒化の場合に選択。
- ・逆級化構造: 逆級化構造あるいは上方粗粒化の場合に選択。

#### 2.4.4. 深度(上)

入力する単層の上端の深度。0以上の数値を入力ください。負の数値に対応していません。

#### 2.4.5. 深度(下)

入力する単層の下端の深度。0以上の数値を入力ください。負の数値に対応していません。

#### 2.4.6. 岩相が変化する深度

”級化構造”あるいは”逆級化構造”を選択した場合に、岩相の変化深度を入力ください。岩相変化深度を指定しない場合、深度(上)と深度(下)との中間深度が自動で入力されます。  
”岩相変化なし”の場合は入力しないでください(内部的に深度(上)が自動で入力されます)。

#### 2.4.7. 基底の性状／地層境界

- ・明瞭: 基底あるいは地層境界が明瞭な場合に選択。
- ・不明瞭: 基底あるいは地層境界が不明瞭あるいは漸移的な場合に選択。
- ・侵食面: 基底あるいは地層境界が侵食面である場合に選択。
- ・断層: 基底あるいは地層境界が断層関係である場合に選択。
- ・連続: 後述の”堆積構造”,”その他の特徴”や”試料採取位置”の入力に不足した場合に選択。  
基底に線分が描画されません。

#### 2.4.8. 岩相

・泥, シルト, 極細粒砂, 細粒砂, 中粒砂, 粗粒砂, 極粗粒砂, 細礫, 中礫, 大礫および巨礫からなる碎屑物の中から選択。  
・火山碎屑物として, 細粒火山灰, 粗粒火山灰, 火山礫および火山弾から選択。  
デフォルトの基盤岩類は, 大雑把な区分を採用し, 泥岩, 安山岩や花崗岩などの区分を採用していません。デフォルトの項目が不十分な場合は, 後述の”入力設定”メニューから, ご自身で必要な入力項目を設定ください。

#### 2.4.9. 岩質

- ・特になし: 以下の特徴がない場合に選択。
- ・ローム質: ローム質な場合に選択。
- ・有機質: 黒ボク, 泥炭や黒色度など有機物に富む場合に選択。
- ・腐植質: 腐植物に富む場合に選択。
- ・石灰質: 石灰成分に富む場合に選択。

#### 2.4.10. 風化状況

- ・風化していない: 新鮮あるいは風化していると判断されない場合に選択。
- ・赤色(強風化): 赤色風化あるいは赤色土の場合に選択。強風化の場合にも選択。
- ・褐色(風化): 褐色土の場合に選択。風化程度が進んでいる場合にも選択。
- ・マダラ模様: 土壌化作用により, 赤色あるいは褐色と元々の碎屑物あるいは岩石の色調がマダラに混在する場合。

#### 2.4.11. 堆積構造

- ・平行層理: 平行層理あるいは平行葉理の場合に選択。
- ・リップル: リップル構造の場合に選択。
- ・斜交層理: 斜交層理の場合に選択。
- ・舟状斜交層理: 舟状斜交層理の場合に選択。
- ・HCS: ハンモック状斜交層理の場合に選択。
- ・スランプ構造: スランプ構造の場合に選択。
- ・荷重痕: 荷重痕の場合に選択。

上記は、デフォルトの設定項目です。後述の”入力設定メニュー”から、ご自身で必要な入力項目を設定可能です。

#### 2.4.12. その他の特徴

- ・ノジュール: 石灰質ノジュールあるいは酸化物の濃集の場合に選択。
- ・サンドパイプ: サンドパイプの場合に選択。
- ・植物化石(材): 材の形状(破片状含む)の植物化石・植物遺骸の場合に選択。
- ・植物化石(葉): 葉の形状(破片状含む)の植物化石・植物遺骸の場合に選択。
- ・植物根: 植物の根あるいはその化石の場合に選択。
- ・植物根痕跡: 植物の根の痕跡(根の分解に伴う脱色や根の分解後に上の地層の碎屑物の流入)の場合に選択。
- ・貝化石: 貝の体化石あるいは印象化石の場合に選択。
- ・貝化石破片: 破片状の貝の体化石あるいは印象化石の場合に選択。
- ・人工遺物: ビニール片, 空き缶などの人工遺物の場合に選択。

上記は、デフォルトの設定項目です。後述の”入力設定メニュー”から、ご自身で必要な入力項目を設定可能です。

#### 2.4.13. 試料採取位置

- ・試料採取位置の深度を入力。

### 2.5. ”ファイル”メニュー

ファイルメニューを押下すると、4つのサブメニューが表示されます(図4)。

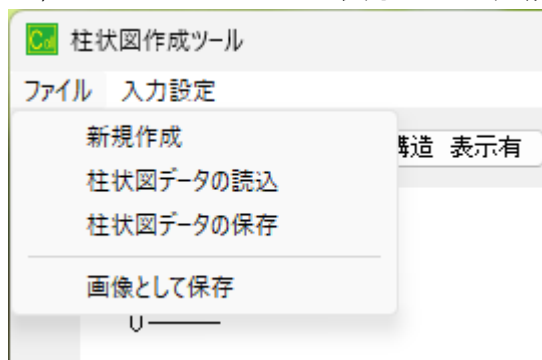


図4. ”ファイル”メニューを押下した画面。”新規作成”, ”柱状図データの読込”, ”柱状図データの保存”および”画像として保存”の項目が表示されます。

#### 2.5.1. 新規作成

これまでの入力状態を破棄して、新たな柱状図データの入力を開始します。

#### 2.5.2. 柱状図データの読込

既存の柱状図データ(csv形式)を読み込み、柱状図を描画します。データの再入力あるいはデータ修正に利用ください。

(temp.csvは現在作成中のデータの一時保存ファイルですので、無視してください。アプリ開始時に自動で生成され、終了後に自動で消去されます。)

#### 2.5.3. 柱状図データの保存

これまでに入力された柱状図データの保存を行います。作業終了後あるいは作業中断にご利用ください。

#### 2.5.4. 画像として保存

現在、描画範囲内にて描画されている柱状図を画像として保存します(png形式のみ)。

## 2.6. "入力設定"メニュー

入力設定メニューを押下すると、2つのサブメニューが表示されます(図5)。

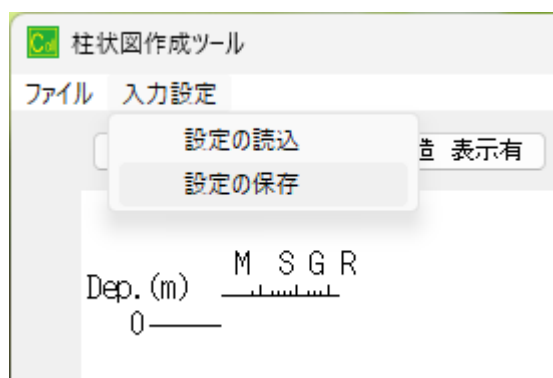


図5. "入力設定"メニューを押下した画面。"設定の読込"および"設定の保存"の項目が表示される。

### 2.6.1. 設定の読込

"基盤岩類", "堆積構造"および"その他の特徴"の入力項目を設定したファイルを読み込みます。例えば, 火砕岩の入力項目を設定した pyroclastic.set を読み込むと(図6), 入力項目がデフォルトのものから変化します(図7)。

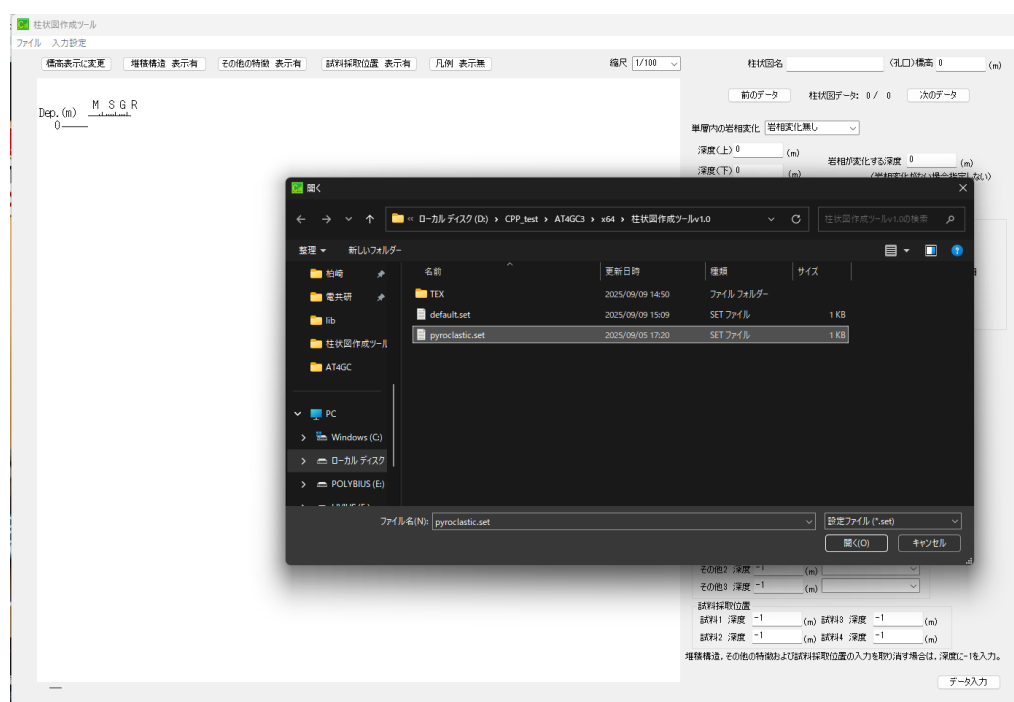


図6. "設定の読込"メニューを押下した画面。例として, pyroclastic.set を読み込む。

### 2.6.2. 設定の保存

ユーザー定義の入力項目の設定を行います。設定可能な入力項目数は, それぞれ, "ユーザー定義 基盤岩類"で6項目, "ユーザー定義 堆積構造"で7項目, "ユーザー定義 その他の特徴"で9項目です。

岩石名, 堆積構造名およびその他の特徴の名称を白色部分に入力し(図8), それに対応するテキストデータを右側の"取込"ボタンを押下して設定ください(図9)。

柱状図名

<孔口>標高 0 (m)

前のデータ

柱状図データ: 0/0

次のデータ

単層内の岩相変化

岩相変化無し

深度(上) 0 (m)

深度(下) 0 (m)

岩相が変化する深度 0 (m)

(岩相変化がない場合指定しない)

基底の性状/地層境界

明瞭

岩相

泥(M)

粘土

シルト

砂(S)

極細粒砂

細粒砂

中粒砂

大粒砂

粗粒砂

極粗粒砂

礫(G)

細礫

中礫

大礫

巨礫

火山砕屑物

細粒火山灰

粗粒火山灰

火山礫

火山弾

基盤岩(R)

堆積岩類

火山岩類

半深成岩類

深成岩類

変成岩類

石灰岩類

(主)欠落(コア欠)は岩相を指定しない

岩質

特になし

ローム質

腐植質

有機質(泥炭)

石灰質

風化状況

風化していない

赤色(強風化)

褐色(風化)

マダラ模様

堆積構造

平行層理や斜交層理などの特徴

堆積構造1 深度 -1 (m)

堆積構造2 深度 -1 (m)

堆積構造3 深度 -1 (m)

堆積構造4 深度 -1 (m)

その他の特徴

ノジュールや化石などの特徴

その他1 深度 -1 (m)

その他2 深度 -1 (m)

その他3 深度 -1 (m)

試料採取位置

試料1 深度 -1 (m)

試料2 深度 -1 (m)

試料3 深度 -1 (m)

試料4 深度 -1 (m)

堆積構造, その他の特徴および試料採取位置の入力を取り消す場合は, 深度に-1を入力。

データ入力

柱状図名 TEST

<孔口>標高 12.5 (m)

前のデータ

柱状図データ: 0 / 0

次のデータ

単層内の岩相変化

岩相変化無し

深度(上) 0 (m)

深度(下) 6 (m)

岩相が変化する深度 0 (m)

(岩相変化がない場合指定しない)

基底の性状/地層境界

明瞭

岩相

泥(M)

粘土

シルト

砂(S)

極細粒砂

細粒砂

中粒砂

大粒砂

粗粒砂

極粗粒砂

礫(G)

細礫

中礫

大礫

巨礫

火山砕屑物

細粒火山灰

粗粒火山灰

火山礫

火山弾

基盤岩(R)

堆積岩類

火山岩類

半深成岩類

深成岩類

変成岩類

石灰岩類

(主)欠落(コア欠)は岩相を指定しない

岩質

特になし

ローム質

腐植質

有機質(泥炭)

石灰質

風化状況

風化していない

赤色(強風化)

褐色(風化)

マダラ模様

堆積構造

平行層理や斜交層理などの特徴

堆積構造1 深度 1 (m) ガス抜けパイプ

堆積構造2 深度 -1 (m)

堆積構造3 深度 -1 (m)

堆積構造4 深度 -1 (m)

その他の特徴

ノジュールや化石などの特徴

その他1 深度 2 (m)

その他2 深度 -1 (m)

その他3 深度 -1 (m)

試料採取位置

試料1 深度 -1 (m)

試料2 深度 -1 (m)

試料3 深度 -1 (m)

試料4 深度 -1 (m)

堆積構造, その他の特徴および試料採取位置の入力を取り消す場合は, 深度に-1を入力。

データ入力

図 7. ”設定の読込”後の入力項目の変化。左:デフォルト(default.set)の入力項目。右:pyro clastic.set の入力項目。基盤岩類, 堆積構造およびその他の特徴の入力項目が読み込んだ設定ファイルに応じて変化する。

柱状図作成ツール

ファイル 入力設定

標準表示に実変更

堆積構造 表示有

その他の特徴 表示有

試料採取位置 表示有

凡例 表示無

縮尺 1/100

柱状図名

<孔口>標高 0 (m)

前のデータ

柱状図データ: 0/0

次のデータ

単層内の岩相変化

岩相変化無し

深度(上) 0 (m)

深度(下) 0 (m)

岩相が変化する深度 0 (m)

(岩相変化がない場合指定しない)

基底の性状/地層境界

明瞭

岩相

泥(M)

粘土

シルト

砂(S)

極細粒砂

細粒砂

中粒砂

大粒砂

粗粒砂

極粗粒砂

礫(G)

細礫

中礫

大礫

巨礫

火山砕屑物

細粒火山灰

粗粒火山灰

火山礫

火山弾

基盤岩(R)

堆積岩類

火山岩類

半深成岩類

深成岩類

変成岩類

石灰岩類

(主)欠落(コア欠)は岩相を指定しない

岩質

特になし

ローム質

腐植質

有機質(泥炭)

石灰質

風化状況

赤色(強風化)

褐色(風化)

マダラ模様

その他の特徴

ノジュールや化石などの特徴

その他1 深度 -1 (m)

その他2 深度 -1 (m)

その他3 深度 -1 (m)

試料採取位置

試料1 深度 -1 (m)

試料2 深度 -1 (m)

試料3 深度 -1 (m)

試料4 深度 -1 (m)

堆積構造, その他の特徴および試料採取位置の入力を取り消す場合は, 深度に-1を入力。

データ入力

設定ファイル入力

ユーザー定義 基盤岩類

基盤岩1 火山岩類

テクスチャファイル名

取込

基盤岩2 火山岩類

テクスチャファイル名

取込

基盤岩3 火山岩類

テクスチャファイル名

取込

基盤岩4 火山岩類

テクスチャファイル名

取込

基盤岩5 火山岩類

テクスチャファイル名

取込

基盤岩6 火山岩類

テクスチャファイル名

取込

ユーザー定義 堆積構造

堆積構造1 堆積構造

テクスチャファイル名

取込

堆積構造2 堆積構造

テクスチャファイル名

取込

堆積構造3 堆積構造

テクスチャファイル名

取込

堆積構造4 堆積構造

テクスチャファイル名

取込

堆積構造5 堆積構造

テクスチャファイル名

取込

堆積構造6 堆積構造

テクスチャファイル名

取込

堆積構造7 堆積構造

テクスチャファイル名

取込

ユーザー定義 その他の特徴

その他1 深部

テクスチャファイル名

取込

その他2 深部

テクスチャファイル名

取込

その他3 深部

テクスチャファイル名

取込

その他4 深部

テクスチャファイル名

取込

その他5 深部

テクスチャファイル名

取込

その他6 深部

テクスチャファイル名

取込

その他7 深部

テクスチャファイル名

取込

その他8 深部

テクスチャファイル名

取込

その他9 深部

テクスチャファイル名

取込

設定ファイル保存

キャンセル



図 8. ”設定の保存”押下後の画面。向かって左側の白色部分に、岩石名、堆積構造の名称、あるいはその他の特徴の名称をキーボードで入力。

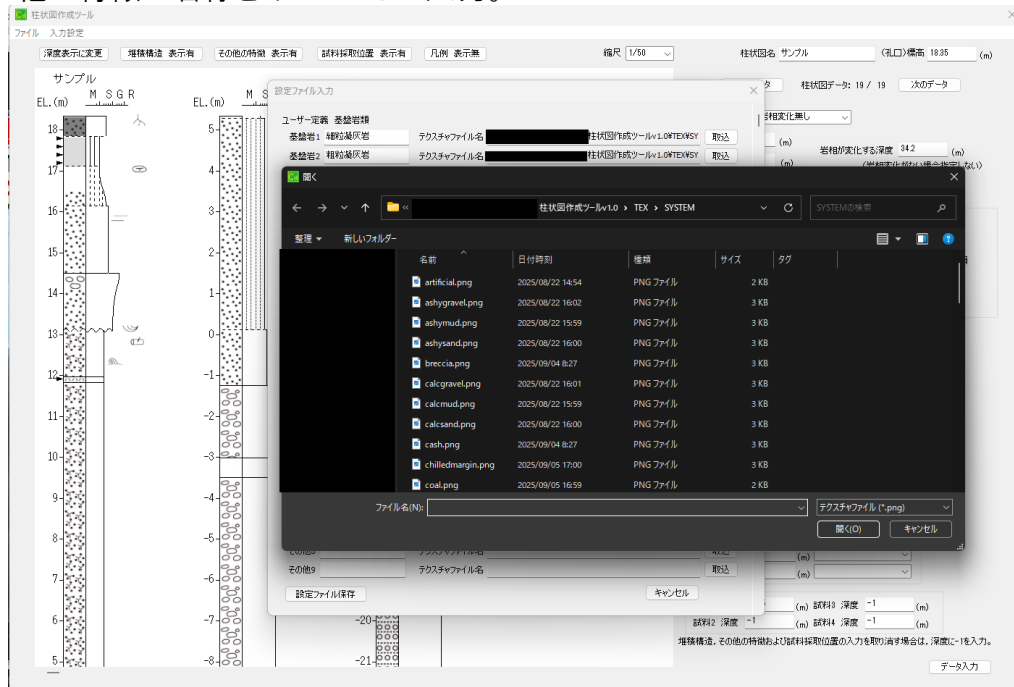


図 9. “設定の保存”におけるテクスチャ画像の選択。入力した岩石名、堆積構造の名称およびその他の特徴の名称の右側の”取込”ボタンを押して、それぞれに対応するテクスチャデータ(png)を設定する。

この機能を利用することにより、カラー化した柱状図を作成することも可能です(図 10)。ご自身で画像作成ソフトを用いて、図 11 のようなテクスチャデータをご準備ください。本アプリでは、png 形式の画像データのみを取り扱っております。

岩相に対するテクスチャは、仕様上の問題で”透明化”していません。しかし、堆積構造とその他の特徴に対しては”透明化”を有効にしたデータをご用意ください。サイズは不問ですが、デフォルトで 128x128 ピクセルの png データを用いています。

テクスチャが正常に描画されない場合、この”透明化”の設定が正しくないことが一番大きな原因となります。

図 10. ”入力設定”を利用したカラー化した柱状図作成の例。”砂”と命名した項目に黄色で色付けしたテクスチャ(図 11)を設定した結果を反映している。

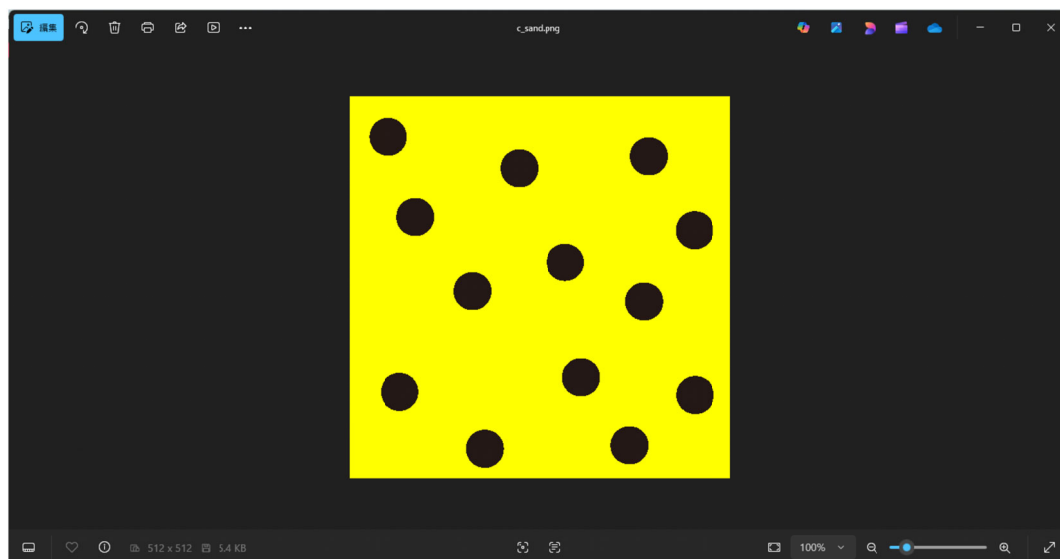


図 11. ”砂”に設定されたテクスチャデータ。ご自身で好みの画像をご準備ください。画像に縁取りした場合，縁取りされたタイル状に描画されますので，画像の縁取りをお勧めしません。



## 2.7. 標高表示に変更 あるいは 深度表示に変更

柱状図の深度表示を”標高表示”あるいは”深度表示”に変更します。デフォルトは深度表示となっています。深度表示の場合は、標尺の上に”Dep.(m)”が表示され、ボタン表示が”標高表示に変更”となります(図 12)。標高表示の場合は、標尺の上に”EL.(m)”が表示され、ボタン表示が”深度表示に変更”となります(図 13)。

図 12. 深度表示の例。サンプルデータ.csv を縮尺 1/100 で深度表示。

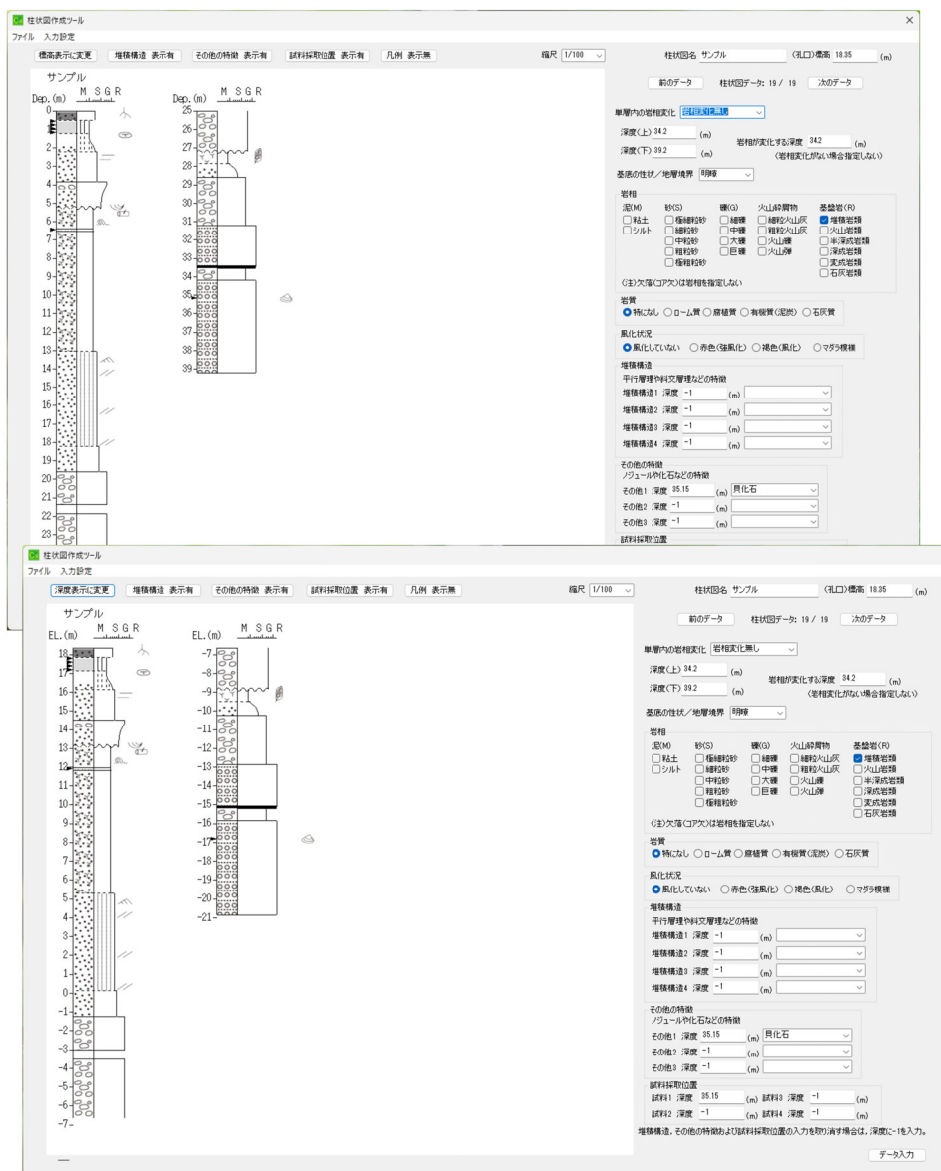


図 13. 標高表示の例。サンプルデータ.csv を縮尺 1/100 で標高表示。

## 2.8. 堆積構造の表示の切替

”堆積構造 表示”あるいは”堆積構造 表示無”ボタンを押して、堆積構造の表示／非表示を切り替えます。デフォルトでは堆積構造を表示します。

## 2.9. その他の特徴の表示の切替

”その他の構造 表示”あるいは”その他の構造 表示無”ボタンを押して、その他の構造の表示／非表示を切り替えます。デフォルトではその他の特徴を表示します。

## 2.10. 試料採取位置 表示有 あるいは 試料採取位置 表示無

”試料採取位置 表示”あるいは”試料採取位置 表示無”ボタンを押して、試料採取位置の表示／非表示を切り替えます。デフォルトでは試料採取位置を表示します。

## 2.11. 凡例 表示無 あるいは 凡例 表示無

”凡例 表示”あるいは”凡例 表示無”ボタンを押して、凡例の表示／非表示を切り替えます。デフォルトでは凡例を表示しません。凡例は、柱状図に描画している項目を表示します(図 14)。例えば、試料採取位置を非表示にした場合、凡例にも表示されません(図 15)。

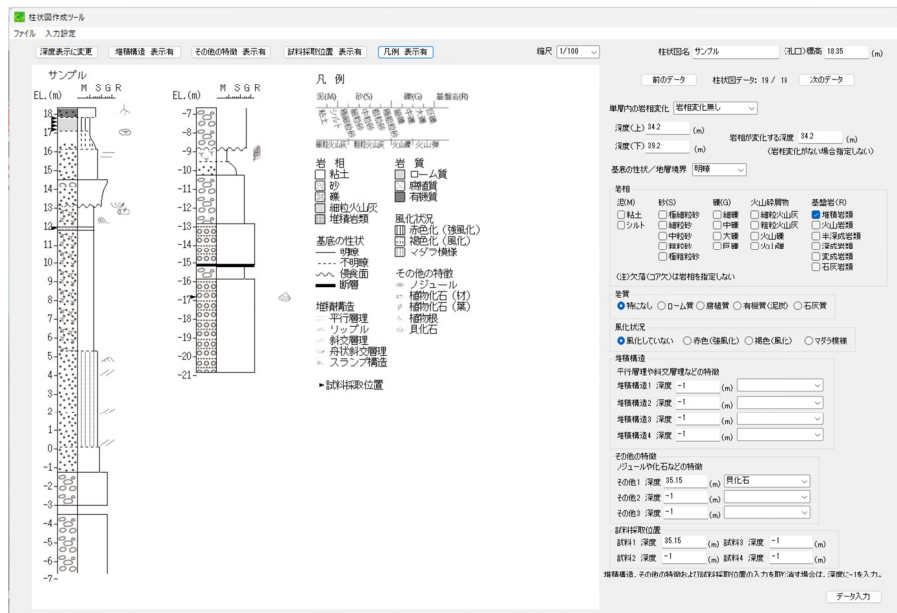


図 14. 凡例 表示有 とした画面。柱状図に描画されたすべての項目が凡例として表示される。

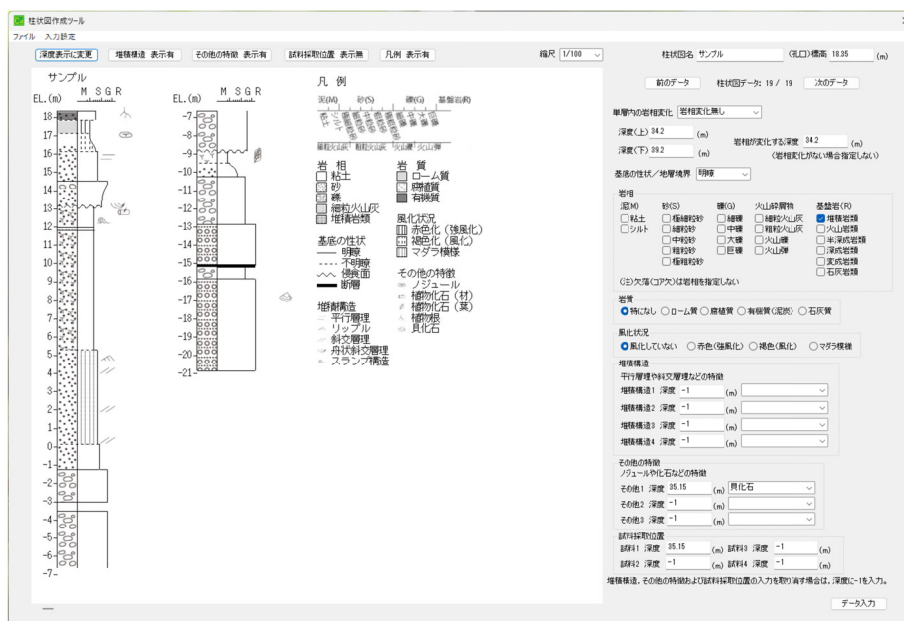


図 15. 凡例 表示有 かつ試料採取位置 表示無 とした画面。柱状図と凡例に試料採取位置が表示されない。

## 2.12. 縮尺

縮尺を押下すると、”1/50”，”1/100”，”1/200”，”1/400”の4つの縮尺を選択することができます(縮尺は、あくまでも、目安です)。

デフォルトは1/100ですが(図 16)、用途に応じて、縮尺をお切替ください(図 17～図 21)。

図 16. 縮尺 1/100 で描画した柱状図の例(添付のサンプルデータ.csv)。一列を 25m 区切りにして描画。

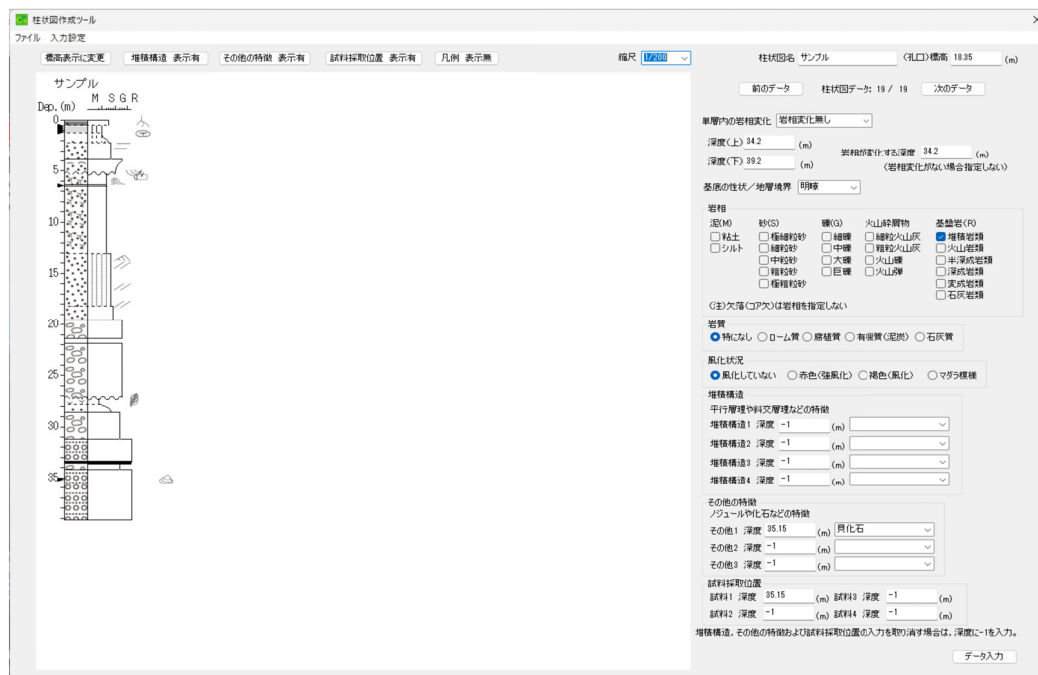


図 17. 縮尺 1/200 で描画した柱状図の例(添付のサンプルデータ.csv)。一列を 50m 区切りにして描画。

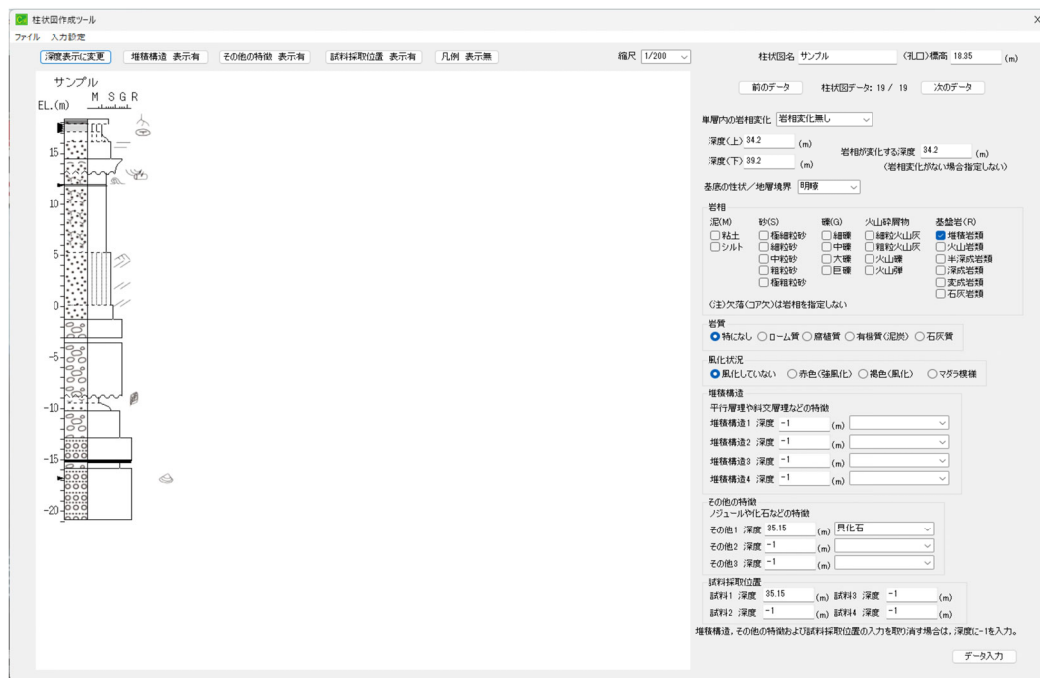


図 18. 縮尺 1/200 で描画した柱状図の例(添付のサンプルデータ.csv)。標高表示の場合。標高を 5m 刻みで、標尺を 1m 刻みで表示する。

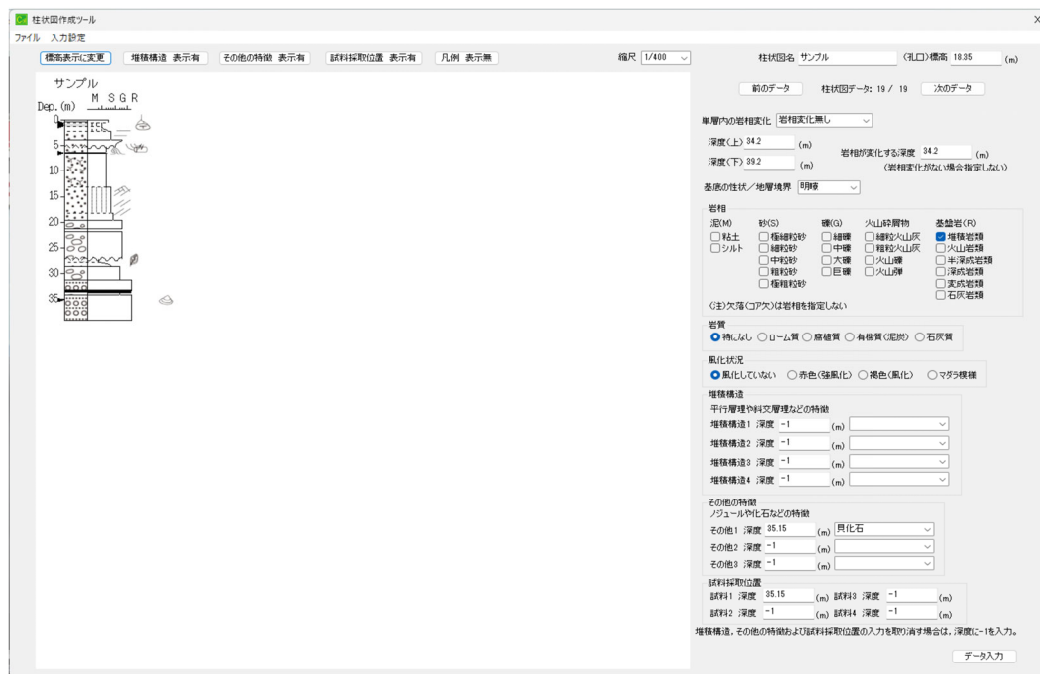
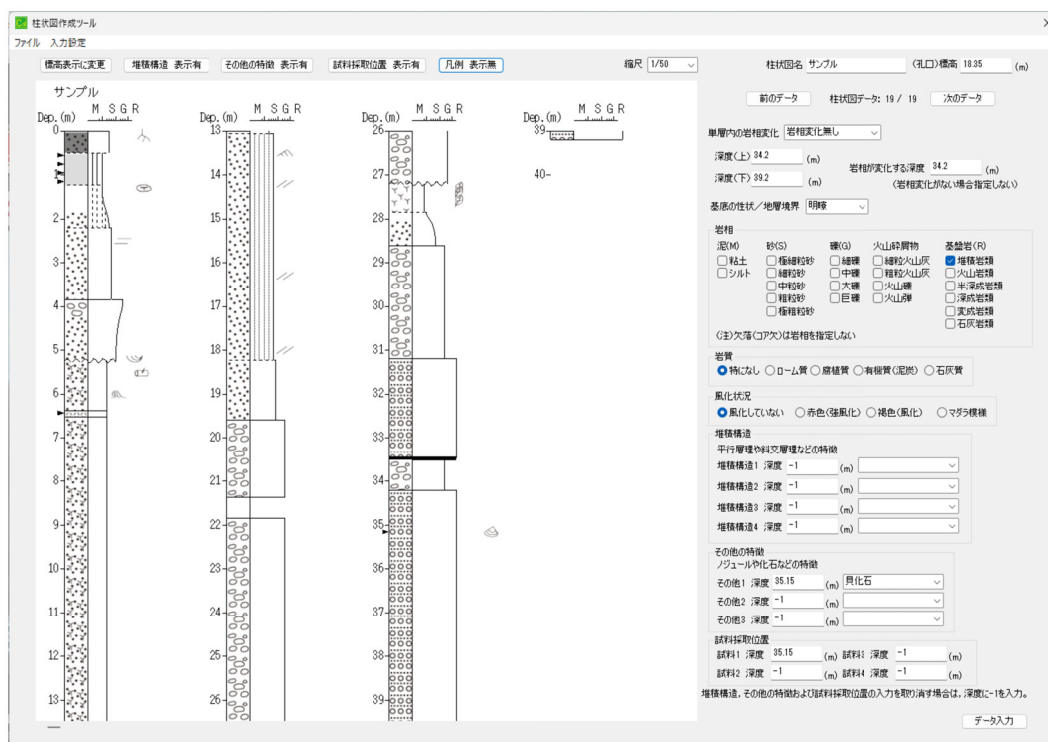


図 19. 縮尺 1/400 で描画した柱状図の例(添付のサンプルデータ.csv)。一列を 100m 区切りにして描画。

図 20. 縮尺 1/400 で描画した柱状図の例(添付のサンプルデータ.csv)。標高表示の場合。標高



と標尺を5m 刻みで表示する。

図 21. 縮尺 1/50 で描画した柱状図の例(添付のサンプルデータ.csv)。一列を 13m 区切りにして描画。

### 2.13. データの確認あるいはデータの修正

入力済みのデータの確認あるいはデータの修正をアプリ上で行う場合、画面右上の”前のデータ”あるいは”次のデータ”ボタンを押下してください。



柱状図名

サンプル

（孔口）標高 18.35 (m)

前のデータ

柱状図データ: 19 / 19

次のデータ

単層内の岩相変化

土質相対比

深度(上) 34.2 (m)

深度(下) 39.2 (m)

岩相が変化する深度 34.2 (m)

(岩相変化がない場合指定しない)

基底の性状／地層境界

明瞭

岩相

泥(M)

粘土

シルト

砂(S)

極細粒砂

細粒砂

中粒砂

粗粒砂

極粗粒砂

礫(G)

細礫

中礫

大礫

巨礫

火山砕屑物

細粒火山灰

粗粒火山灰

火山礫

火山弾

基盤岩(R)

堆積岩類

火山岩類

半深成岩類

深成岩類

変成岩類

石灰岩類

(主)欠落(コア欠)は岩相を指定しない

岩質

特になし

ローム質

腐植質

有機質(泥炭)

石灰質

風化状況

風化していない

赤色(強風化)

褐色(風化)

マダラ模様

堆積構造

平行層理や斜交層理などの特徴

堆積構造1 深度 -1 (m)

堆積構造2 深度 -1 (m)

堆積構造3 深度 -1 (m)

堆積構造4 深度 -1 (m)

その他の特徴

ノジュールや化石などの特徴

その他1 深度 35.15 (m) 貝化石

その他2 深度 -1 (m)

その他3 深度 -1 (m)

試料採取位置

試料1 深度 35.15 (m) 試料3 深度 -1 (m)

試料2 深度 -1 (m) 試料4 深度 -1 (m)

堆積構造、その他の特徴および試料採取位置の入力を取り消す場合は、深度に-1を入力。

前のデータ

柱状図データ: 15 / 19

次のデータ

単層内の岩相変化

級化構造

深度(上) 27.85 (m)

深度(下) 28.6 (m)

岩相が変化する深度 28 (m)

(岩相変化がない場合指定しない)

基底の性状／地層境界

明瞭

岩相

泥(M)

粘土

シルト

砂(S)

極細粒砂

細粒砂

中粒砂

粗粒砂

極粗粒砂

礫(G)

細礫

中礫

大礫

巨礫

火山砕屑物

細粒火山灰

粗粒火山灰

火山礫

火山弾

基盤岩(R)

堆積岩類

火山岩類

半深成岩類

深成岩類

変成岩類

石灰岩類

(主)欠落(コア欠)は岩相を指定しない

岩質

特になし

ローム質

腐植質

有機質(泥炭)

石灰質

風化状況

風化していない

赤色(強風化)

褐色(風化)

マダラ模様

堆積構造

平行層理や斜交層理などの特徴

堆積構造1 深度 -1 (m)

堆積構造2 深度 -1 (m)

堆積構造3 深度 -1 (m)

堆積構造4 深度 -1 (m)

その他の特徴

ノジュールや化石などの特徴

その他1 深度 -1 (m)

その他2 深度 -1 (m)

その他3 深度 -1 (m)

試料採取位置

試料1 深度 -1 (m) 試料3 深度 -1 (m)

試料2 深度 -1 (m) 試料4 深度 -1 (m)

堆積構造、その他の特徴および試料採取位置の入力を取り消す場合は、深度に-1を入力。

図 22. ”前のデータ”あるいは”次のデータ”ボタン押下による入力データ内容の確認。左：柱状図データ 19 番目の入力データ内容。右：柱状図データ 15 番目の入力データの内容。

### 2.13.1. 前のデータ

現在表示している入力データのひとつ前の入力データを表示します。図 22 右はサンプルデータ.csv の 15 番目の入力データを表示します。これは、図 22 左の状態から”前のデータ”ボタンを 4 回押した状態です。

### 2.13.2. 次のデータ

現在表示している入力データのひとつ後の入力データを表示します。”柱状図データ読込”後あるいは後述のデータ修正後にデータを追加する場合にもご利用いただけます。

### 2.13.3. データの修正

上記のボタンを利用して、入力データの確認を行い、データの入力ミスに気づいた場合は、該当箇所のデータの再入力を行うことでデータを修正することができます。

例えば、サンプルデータ.csv の 15 番目の深度データ(図 22 右)の岩相を中粒砂からシルトへの級化構造でなく、極粗粒砂からシルトへの級化構造と基底を侵食面に修正する場合、該当箇所の岩相に”シルト”と”極粗粒砂”を押下し、基底の性状／地層境界を侵食面とし(図 23), ”データ入力”を押下すると修正データに応じた柱状図が描画されます(図 24)。

図 23. 入力データの確認と修正。サンプルデータ.csv の柱状図データ 15 番目のデータを 2.13.3. の記載の通りに修正。

図 24. データ修正後の画面。修正箇所に応じて描画内容が変化する。

または、柱状図データは csv 形式で保存されますので、これをエクセルなどで直接変更させることでもデータの修正は可能です。堆積構造項目とその他の特徴項目の数字は、設定の保存で指定した項目番号に対応します。

データ構造は以下の通りです。

- ・最上段左: 柱状図名。
- ・最上段右: 孔口標高あるいは露頭上端の標高。
- ・top: 深度(上)の入力値。
- ・bot: 深度(下)の入力値。
- ・int: 岩相の変化する深度の入力値(計算値)。
- ・Str: 単層内の岩相変化の入力値。0: 岩相変化なし, 1: 級化構造, 2: 逆級化構造
- ・Bou: 基底の性状/地層境界の入力値。0: 明瞭, 1: 不明瞭, 2: 侵食面, 3: 断層, 4: 連続
- ・RF1: 選択した岩相の一つ。
- ・RF2: 選択した岩相の一つ。
- ・RFe: 岩質の入力値。0: 特になし, 1: ローム質, 2: 腐植質, 3: 有機質(泥炭), 4: 石灰質
- ・Wea: 風化状況。0: 風化していない, 1: 赤色(強風化), 2: 褐色(風化), 3: マダラ模様
- ・DSe1~DSe4: 堆積構造1~4の深度の入力値。



- ・Se1～Se4:堆積構造1～4の入力値。0:なし, 1:堆積構造項目 1, 2:堆積構造項目 2, 3:堆積構造項目 3, 4:堆積構造項目 4, 5: 堆積構造項目 5, 6: 堆積構造項目 6, 7: 堆積構造項目 7
- ・DEc1～DEc3:その他の特徴1～3の深度の入力値。
- ・Ec1～Ec3:その他の特徴1～3の入力値。0:なし, 1:その他の特徴項目 1, 2:その他の特徴項目 2, 3:その他の特徴項目 3, 4:その他の特徴項目 4, 5:その他の特徴項目 5, 6:その他の特徴項目 6, 7:その他の特徴項目 7, 8:その他の特徴項目 8, 9: その他の特徴項目 9
- ・DSa1～DSa4:試料採取位置1～4の深度の入力値。
- ・Sa1～Sa4:試料採取位置の入力値。0:なし, 1:有。

#### 2.14. 描画範囲の移動

縮尺を変更した場合あるいは入力深度が大きく、柱状図が複数列並び描画範囲外に達した時は、画面最下部のスクロールバーを使って、描画範囲を調整ください。

例えば、図 25 のように描画範囲右端の凡例が見切れている場合、十分に凡例の描画内容を確認できるところまでスクロールバーを右側に移動させます(図 26)。画像保存の際も同様な手順で、必要とする図面範囲を調整ください。

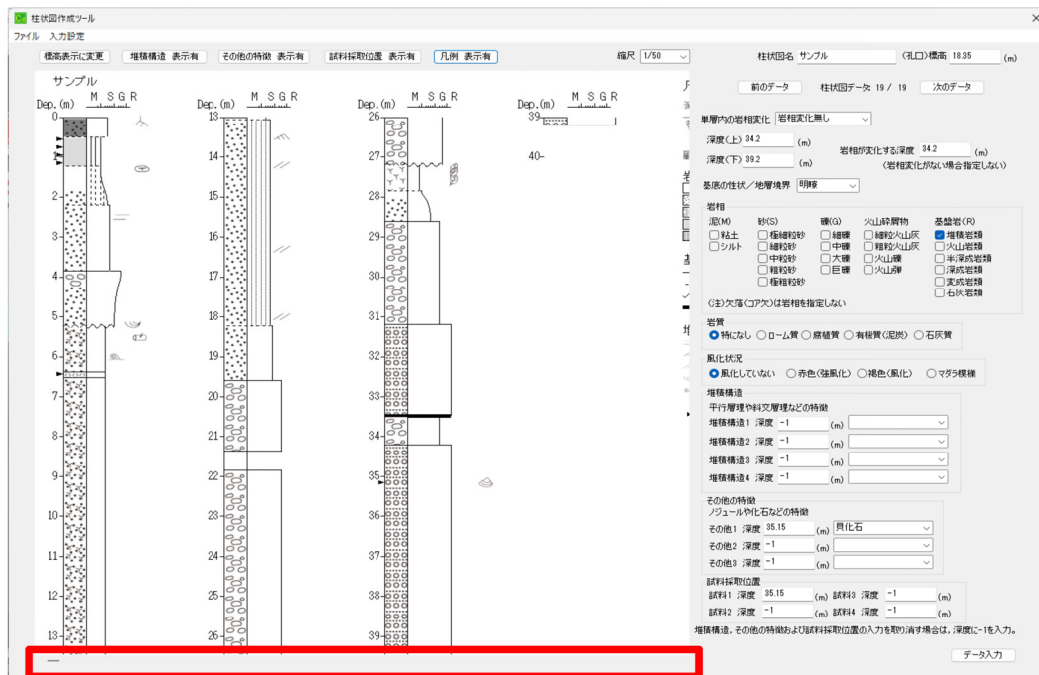


図 25. スクロールバーの位置。赤枠で示した画面最下部のスクロールバーで描画画面を移動させる。現在、凡例が見切れている。スクロールバーを右に動かし、図 26 の状態にする。

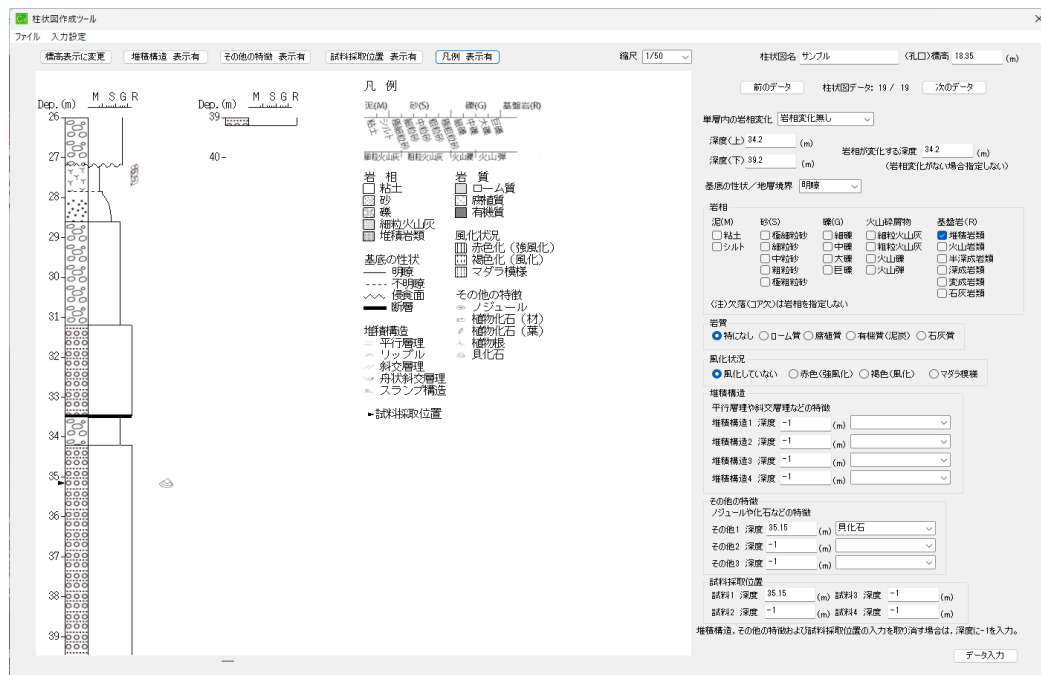


図 26. スクロールバーによる描画内容の移動。スクロールバーを左に移動させると、左部分の描画内容を確認できます。

### 3. 開発環境

開発環境: Visual Studio 2022 Community ver.17.14.14, Windows 11 Pro

開発言語: Visual C++

描画言語: OpenGL (GLFW 3.4, GLEW 2.1). 開発 PC は OpenGL 4.6 に対応。

### 4. 著作権等

「柱状図作成ツール」はフリーソフトです。再配布は自由ですが、本アプリの著作権は私(福地)にありますので、改変はご遠慮ください。

また、このアプリを使用したために発生した損失等についての責任を負いかねますので、この旨をご承知いただいた上でご使用ください。ただし、バグにつきましては、積極的に修正したいと存じます。バグ報告を以下のメールアドレスまでお寄せいただければと、大変、助かります。

2025/09/09  
エイエフコンサルタント  
福地 亮  
afkc(@)gujo-tv.ne.jp

### 【更新履歴】

・Ver1.1(2025/09/12)

ユーザー定義した凡例の文字列が重なることのある不具合を修正。

・Ver1.0(2025/09/09)